

令和6年(2024年)10月18日  
東京大学

## 「アセットオーナー・プリンシプル」の受け入れについて

東京大学は、アセットオーナー（資産保有者としての機関投資家）として、アセットオーナーの運用・ガバナンス・リスク管理に係る共通の原則（アセットオーナー・プリンシプル）に賛同し、受け入れることを表明します。

**原則1. アセットオーナーは、受益者等の最善の利益を勘案し、何のために運用を行うのかという運用目的を定め、適切な手続も基づく意思決定の下、経済・金融環境等を踏まえつつ、運用目的に合った運用目標及び運用方針を定めるべきである。また、これらは状況変化に応じて適切に見直すべきである。**

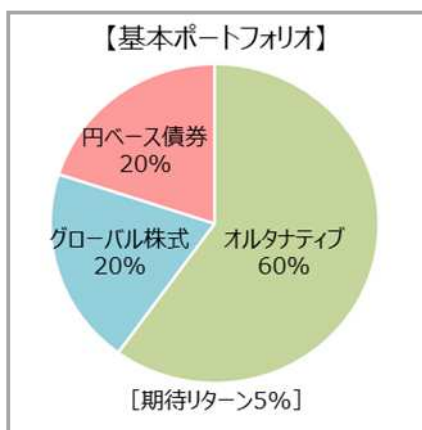
○東京大学は、リスク管理を適切に行いつつ、効率的な運用を行うことによって、中長期的な財務基盤の強化を図り、もって教育・研究の発展に資することを目的として運用を行っています。

○効率的な運用によってリスク調整後のリターンを最大化し、運用資産の安定的成長を達成することを通じて「エンダウメント型の経営」を早期に実現し、将来のアカデミック・ウェルビーイングの充実に貢献することを目指します。

○そのために期待される収益の確保を運用の目標にし、運用資金の特性を踏まえて中長期的観点から基本ポートフォリオを定め、資産分散を図ることを基本方針としています。

○具体的な中長期期待リターン及び基本ポートフォリオの策定にあたっては、CIO(Chief Investment Officer)を中心に資金運用管理委員会において審議を行い、経営協議会及び役員会の議を経て決定しています。

○CIO、CFO オフィス資金運用ユニットメンバー及び資金運用管理委員会委員が運用状況を常時モニタリングしつつ、市場環境の変化等に応じて必要が生じた場合には、CIO が役員会に基本ポートフォリオの見直しの提案を行います。



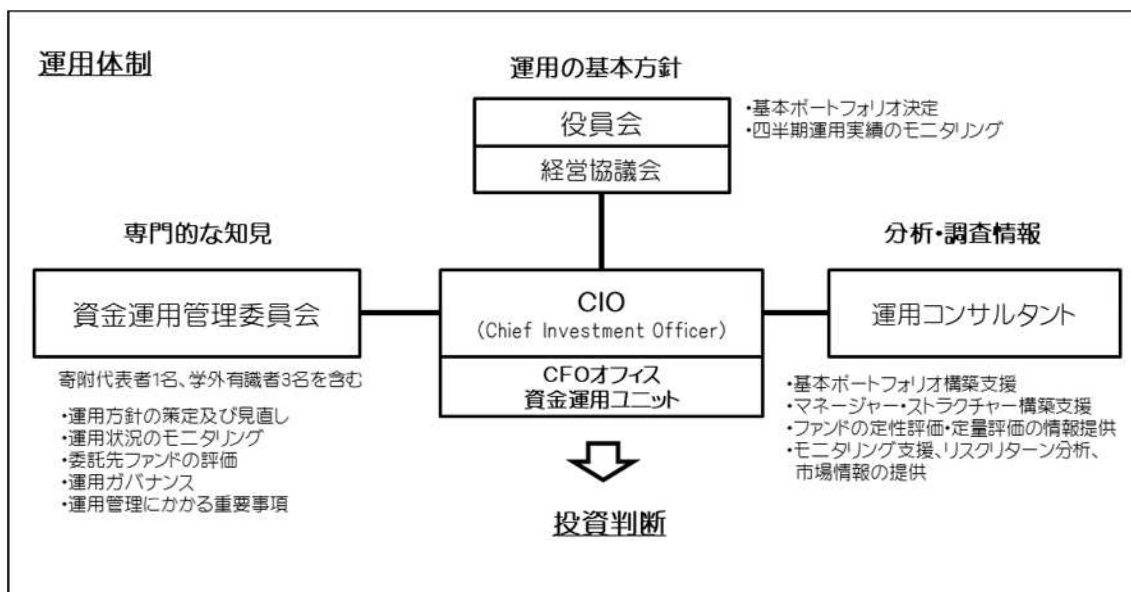
(2024年9月末時点の中長期基本資産配分)

**原則2. 受益者等の最善の利益を追求する上では、アセットオーナーにおいて専門的知見に基づいて行動することが求められる。そこで、アセットオーナーは、原則1の運用目標・運用方針に照らして必要な人材確保などの体制整備を行い、その体制を適切に機能させるとともに、知見の補充・充実のために必要な場合には、外部知見の活用や外部委託を検討すべきである。**

○東京大学は、ポートフォリオの運用とリスク管理を適切に行うため、専門的知見に基づいて投資判断が行える体制を構築しています。

○高度な専門的知見を有する人材をCIOとして配置し、CIOがCFOオフィス資金運用ユニットメンバーとともに、資金運用委員会における豊富な実務経験を持つ外部委員との議論、資産運用コンサルタントからの定量的分析及び投資戦略先運用体制の評価などの客観的助言も合わせて総合的に投資判断を行っています。

○今後も運用規模の拡大、高度化の進展に合わせた外部人材確保による体制強化と、内部職員の人材育成に努めてまいります。



**原則3. アセットオーナーは、運用目標の実現のため、運用方針に基づき、自己又は第三者ではなく受益者等の利益の観点から運用方法の選択を適切に行うほか、投資先の分散をはじめとするリスク管理を適切に行うべきである。特に、運用を金融機関等に委託する場合は、利益相反を適切に管理しつつ最適な運用委託先を選定するとともに、定期的な見直しを行うべきである。**

○東京大学は、大学の資金で運用を行うフィデューシャリー・デューティについて深く認識し、運用目標を安定的に達成するため、中長期的観点で定めた基本ポートフォリオに基づき、期待リターンとリスクの効率性を考慮してポートフォリオを構築しています。

○運用委託会社の選定では、本学の運用戦略に適合した運用ファンドの提案を幅広く受け、委託先運用機関の投資哲学、運用手法、組織体制、実績等を評価し、委託コストも含めて総合的に判断して選択します。更に、運用コンサルタントの客観的なデューデリジェンス結果も踏まえて投資判断を行っています。

○運用委託会社別のパフォーマンスについて CIO、資金運用ユニット及び資金運用管理委員会がモニタリングを行い、必要に応じて見直しを行っています。また、資産運用コンサルタントによる実績結果分析や運用スタイル評価も重視しながら判断しています。

**原則4. アセットオーナーは、ステークホルダーへの説明責任を果たすため、運用状況についての情報提供(「見える化」)を行い、ステークホルダーとの対話に役立てるべきである。**

○東京大学は、フィデューシャリー・デューティを果たすため、運用に関する情報開示にも積極的に取り組んでおり、基本ポートフォリオ、半年ごとの資産クラス別の運用実績、資金運用管理委員会の開催状況等の情報を WEB サイトで公表しています。

○東京大学基金への寄附者代表で構成される「基金運営委員会」において定期的に運用状況を報告し、寄附者との対話を行っています。

○引き続き、ステークホルダーへの説明責任を適切に果たせるよう、情報公開に努めてまいります。

**原則5. アセットオーナーは、受益者等のために運用目標の実現を図るに当たり、自ら又は運用委託先の行動を通じて スチュワードシップ活動を実施するなど、投資先企業の持続的成長に資するよう必要な工夫をすべきである。**

○東京大学は、ESG 投資方針を定め、長期的リターン向上と持続可能な社会の実現の両立を目指すため、PRI (国連責任投資原則) に署名し、ESG 投資の実践に取り組んでいます。

○運用委託会社の選定の際には、ESG インテグレーションやアクティブ・オーナーシップへの取り組み状況を考慮した評価を行っています。

○今後もアセットオーナーとして、大学における運用にふさわしいエンゲージメント活動に取り組んでまいります。